

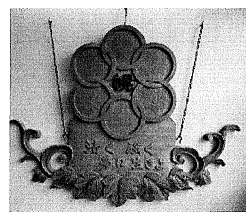
令和3年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：札幌地区
- 2 事例報告学校名：札幌市立幌東小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 庄 司 直 美
- 4 キーワード：つながりを大切にしている特色ある教育活動

1 はじめに

本校は、今年開校47年目を迎え、現在17学級（特別支援学級2を含む）、460名の児童が毎日元気に生活している。地域の皆様の熱い思いによって、中学校に隣接する形で本校が開校した。校区は歴史ある菊水地区にあると同時に、地下鉄沿線という土地柄から再開発事業も多く、新しさを感じる地域でもある。

本校の校歌は、初代校長の江原攝氏が札幌冬季オリンピックのテーマソング「虹と雪のバラード」の作詞者である河邨文一郎氏に依頼して出来上がったものだ。校歌の歌詞には「清く、強く、夢に生きよ」という一節がある。校歌やこの一節を刻んだ大森末吉氏作のレリーフとともに、開校当時の子どもたちへの変わらぬ思いとして継承されている。そうした本校の伝統や特色、子どもの実態や地域性を大切にしながら教育活動を行っている。



2 これからの時代を生きる子どもたちに「きらめき」と「ときめき」を

本校は、「“きらめき”と“ときめき”で笑顔あふれる子どもの育成」を学校経営方針の重点目標としている。「きらめき」は、主体性、協働性、思いやりの心を日常の授業実践や活動を中心に育み、「ときめき」は、夢、あこがれ、感動する心を、体験や交流などの活動を通して育むことを考え教育課程を構成している。この「ときめき」をキーワードに、本校の特色を生かした取組を紹介していく。

3 学校の特色を生かした教育活動

(1) 人と人とのつながりを大切にしている教育活動

① 札幌らしい「オリンピック・パラリンピック教育」の推進を生かして

本校は、オリンピックとの関わりが深いことから、札幌市教育委員会による「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」を積極的に活用した「地域学習」を3年生で行っている。学習の導入時に、本校校歌と札幌冬季オリンピックのテーマソング「虹と雪のバラード」を作詞した方が同じであると知った子どもたちは、オリンピックを少し身近に感じながら、大倉山にある札幌オリンピックミュージアムの見学を行う。オリンピックミュージアムでは、オリンピックの方々のお話とともに、オリンピックの歴史と感動を体験している。オリンピックを様々な視点で捉えるとともに、自分たちの住んでいる札幌という地域のよさに触れることにもつなげていく。



その後、自分たちでオリンピックについて調べていく中で、オリンピックによる出前授業に取り組む。これまで、カーリングの近江谷杏菜選手、パラリンピック・ホッケーの三澤英司選手、スピードスケートの鈴木靖選手に授業を行っていただいた。子どもたちが選手と交流しながら、自分で調べてきたオリンピックに関する疑問に答えたいたり、夢をかなえるための努力や苦勞、体験談についてのお話を聞いたりすることは、大変貴重な体験であり、選手を身近に感じながら、より一層のあこがれや尊敬を抱くことになる。このことは、本校で大切にしている「ときめき」につながり、冬のスポーツへの興味・関心にもつながっている。



② 開校からの思いをつなぐ異学年交流

本校の校章は雪の結晶六角を基調として6つの円でデザインされていることから、本校の子どもたちを「六輪っ子」として、開校当初から異学年交流を大切にしてきた。子どもたちが主体となって行う、六輪っ子活動（異学年交流）や六輪カーニバル（幼保小連携も含む）、全校歌声などに取り組んでいる。これらの活動は、身近な人に対して、思いやりやあこがれの心を育む大切な場であると考えている。

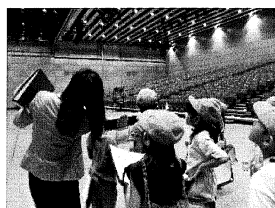
その一つであるクラブ活動では、今年度は、感染症対策のため学年ごとに行ったが、学年間の交流をなんとか実現させたいと、各学年がポスターやICTを活用した新しい形の発表に取り組んだ。次年度に向けても、本校で大切にしている異学年交流の新しい活動の在り方を探っていきたいと思っている。



(2) 地域とのつながりを大切にする教育活動～小中一貫した教育につながる取組～

① 地域のよさを生かす

本校区は、歴史と新しさがうまく両立している地域である。2年生の地域探検、6年生の職場体験など、それぞれの学年において、古くからある問屋や新しくできた大型商業施設、複合型会議場などを活用し、地域社会に積極的に関わりながら学ぶ活動も行っている。夢を育むキャリア教育の素地として、より一層の充実を図っていききたいと思う。



② 地域とのつながり・小学校同士の連携

本校の菊水地域では、小学校3校、中学校1校の4校が連携して教育活動を進めている。地域の青少年育成委員会の皆様には、



4校の子どもたちが交流する様々な場を企画していただいている。交流が難しい年には、子どもたちへのメッセージを作成し、各学校に掲示してくださった。また、小学校3校では、地域の交通安全の取組の一環として「ひまわりの絆プロジェクト」という活動にも取り組んでいる。地域で子どもたちを支え、育てるとい活動に、学校も支えられている。

③ 中学校・高校との連携

中学校とは、6年生が授業見学の他、卒業式の前に中学校の合唱部員と合唱交流を行っている。合唱部の歌声の素晴らしさを他の学年にもぜひ聴かせたいと、4年生以上も合唱交流に参加するようになった。また、校区内にある札幌東高等学校との連携として、高校の吹奏楽局が小学校3校それぞれを会場に演奏会を行っていただいている。子どもたちにとっては、様々な楽器を見ることも興味津々だが、それ以上に、自分たちと年齢の近い、お兄さん、お姉さんのような生徒たちが上手に演奏する姿は、一段と格好良く、輝いた姿として子どもたちの目に映っている。中、高校生の立派な姿に「自分もこんな中学生になりたい。」「高校生になったら、演奏してみたい。」と、夢やあこがれを感じる非常に価値ある取組として、今後も継続していきいたいと思う。



4 おわりに

「きらめき」も「ときめき」も、本校の子どもたちにとって、これからの時代を生き抜くために必要な資質・能力であり、開校当時の教職員の思いと合致するものでもある。また、長年にわたり学校を支えてくださっている地域の人々の思いでもあると考える。多くの人々とのつながりを通して、子どもたちの「ときめき」を育み、地域を愛する子どもたちを育てていくことを大切に、今後も学校経営に努力していきいたいと思う。